

平成28年度倉敷市よい子いっぱい基金運営委員会会議録（要旨）

- 1 会議名 倉敷市よい子いっぱい基金運営委員会会議
- 2 開催日時 平成28年6月3日（金） 11時00分～11時50分
- 3 開催場所 倉敷市役所 3階 特別会議室
- 4 出席者 委員：9人
井上副会長、八木監事、難波委員、浅原委員、遠藤委員、大矢委員、
中田委員、仁科委員、野村委員
事務局：6人
中原教育次長、松井生涯学習部長、三宅生涯学習部次長、
貝原課長主幹、浅野主任、浅野主事
- 5 議題 (1) 平成27年度事業報告及び平成27年度会計報告について
(2) 平成28年度事業計画（案）及び平成28年度予算（案）について
(3) 倉敷市よい子いっぱい基金事業実施要領（案）について
(4) その他
- 6 傍聴者 なし
- 7 審議結果 (1) 平成27年度事業報告及び平成27年度会計報告について
○原案のとおり承認
(2) 平成28年度事業計画（案）及び平成28年度予算（案）について
○原案のとおり承認
(3) その他
○なし
- 8 会議録（要旨） 次のとおり
 - (1) 開会（11：00）
 - (2) 挨拶 井上副会長
 - (3) 委員紹介
順次、委員及び事務局自己紹介
 - (4) 協議
 - ア 平成27年度事業報告及び平成27年度会計報告について
平成27年度事業報告及び会計報告について、事務局から内容を説明（会議

資料P 1～2・6 参照)。

【主な意見】

副会長：平成20年から寄附金額が増額しているのはなぜか。

事務局：大口の寄附をいただくことが増えたためである。

委員：よい子いっぱい基金に関するPR効果があったためではないか。件数もかなり増えてきており、周知ができているのではないか。

イ 平成28年度事業計画（案）及び平成28年度予算（案）について

平成28年度事業計画（案）及び平成28年度予算（案）について、事務局から内容を説明（会議資料P 4～5・7 参照）。

【主な意見】

事務局：昨年のよい子いっぱい基金運営委員会でお諮りした「ボランティア手帳」だが、委員のみなさまから再検討するようご意見をいただいていた。事務局で継続検討をしたが、ボランティアの趣旨、実施団体の有無等を勘案し、一旦、取り下げさせていただくことをご報告する。

副会長：立志式が事業の一つとしてあるが、立志式を見る機会がなかなか無いが、立志式の現状はどうか。

委員：従来から、立春を目途に立志式を行うところが多い。年間行事の締めくくりとして立志式行う学校もあり、大人へ一歩近づく活動となっている。普段、お呼びできない講師をお呼びしたり、決意表明及びその記念制作等を行っている。その中で、自分のこれまでの成長と今後の将来に向けて考える機会としている。

副会長：記念制作は学校によって違うのか。

委員：毎年検討しており、学校や学年で違いがある。扇に決意表明を書くのが、最近の主流となっている。

副会長：立志式を行うことで、子どもたちの大人に近づくという意識に変化はあるか。

委員：自分の将来を見つめる機会となっており、変化がある。また、保護者の方々も、子どもの成長の節目である式典と捉えられているようだ。

委員：昨年度支出の事務費について、決算額が大幅に少ない。今年度事務費予算は、昨年度支出からすると多いようだがなぜか。

事務局：昨年度は、ボランティア手帳分の予算額が含まれていたため、予算額に比べ、決算額は大幅に減少している。

委員：ボランティア手帳費用を除いても多いようだがなぜか。

事務局：広報用の印刷代等において、毎年支出とならないものもあるため、少し多く見積もっている。

副会長：よい子強い子表彰の対象者の数について、ここ4～5年の推移はどうか。

事務局：平成27年度実績からは微増となっており、ここ数年においても、大幅な表彰数の増加はない。

委員：新規事業の予定はあるか。

事務局：ここ数年、国際感覚を養うものが事業化できていない状況であり、課題となっている。また、今年はG7教育大臣会合の開催とそれに伴う「倉敷宣言」も採択されたため、これらに関連したものが具体化された場合、これに助成できるのではないかと考えている。

委員：何か良いきっかけで、子どもたちに国際感覚が身に付くものにつなげてもらいたい。

副会長：倉敷市では、地元倉敷を大切にしてもらえようような施策を展開している。昔に比べると、地域と学校のつながりが弱くなったとの声を聞くが、その点について地域で子どもたちと接して来られて、子どもたちの様子を見て何かお気づきのことがあるか。

委員：地域住民が花の植え替え等の活動を積極的に行っており、学校への出入りが多く、学校との関係が良い。このためか、子どもたちが少し落ち着いてきたと感じる。あいさつ運動も実施しているところだが、登下校の途中の実施をすれば、広範囲なあいさつ運動もでき、寄り道をする子どもも減ってきている。

委員：特に小学校区を見ていると、教員の人事異動は地域に大きな影響を及ぼしている。校長にも様々な色があるため、地域が入りやすい雰囲気は校長によって左右されると感じる。学校へは地域が入りやすい雰囲気づくりをお願いしたい。

委員：学区全体として、取組んでいける地域であるため、幼小中の連携教育

を考えている。その中に、地域住民にも参画していただき、密着度を高め、積み上げた義務教育を行っていききたい。

委員：倉敷っ子なかよし作品展、表彰事業はいいものだと思う。子どもたちの励みになると思うので、是非、今後も継続してもらいたい。

委員：現在の赴任校は、地域住民が協力的である。先日行った運動会でも、地区からたくさんの方が参加してくださり、最後の片づけまでお手伝いくださって、地域の運動会という印象だった。防犯パトロールや放課後子ども教室でも、ご支援をいただいている。

委員：小学校との関わりが大きいと、学校の様子は把握しており、また保護者からの意見も多く聞く。最近では、働く保護者が増えたと感じる。幼稚園までは子育てに専念する方もいるが、小学校へ上がると就労率が格段に上がるように感じる。そうすると、保護者側から地域への歩み寄りを望む難しさを感じる。核家族化や転勤族が多い地域はさらにそう思う。今の時代は保護者への働きかけよりも、地域資源・人材を掘り起こすことが必要な時代ではないかと感じる。地域の掘り起こしができる、さらなる連携が図れるのではないかと。

委員：学生がボランティアをする際への補助をしてもらいたい。具体的には、遠方でのボランティア活動を希望しても、交通費が懸念となり活動を自粛せざるを得ない状況や、苦しい生活の中から交通費を捻出している事例もある。このような学生のボランティア活動を行う上での支援をしてもらいたい。

委員：地域では、子ども会活動など地域活動が停滞している。親は地域と関わっていく中で、親として成長するものではないか。仕事をしながら子育ての両立は、非常に難しいとは思いますが、保護者が地域と関わられるいい方法があればと思う。

副会長：今後、子どもの数が減少していく時代の中では、地域からのご支援の重要性を感じる。「よい子いっぱいのもち」を目指すには、学校だけでなく地域住民等の大人の積極的な関わりが不可欠であると感じる。今までにも増して、みなさまのご支援をいただきたいと思います。

ウ その他

なし

(5) 閉会 (11:50)

以上の会議録を、平成28年6月3日開催の倉敷市よい子いっぱい基金運営委員会会議の議事録(要旨)とすることを承認します。

平成28年6月17日

倉敷市よい子いっぱい基金運営委員会

会長 伊東香織